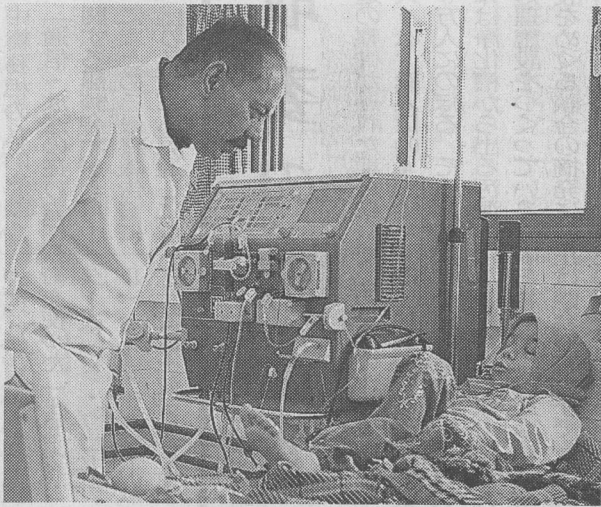


ガザの子 苦境

朝食取れず 栄養失調も 薬品不足 点滴に不自由



物流封鎖・援助凍結響く

パレスチナ自治区のガザで、栄養失調児が増えたり病院の医薬品が不足したりするなど、人道的な危機が深刻化する恐れが出ている。イスラエルによる物流の封鎖に加え、パレスチナ自治政府を担うイスラム過激派ハマスがイスラエルの生存権を認めないため、欧米が始めた援助凍結も拍車をかけている。3月29日に発足してから1カ月が過ぎたハマス政権は打つ手がなく、人心が荒廃して治安が悪化する懸念が出ている。（ガザ＝村上伸一）

ガザ市で栄養失調児に治療と食事を与えている非政府組織（NGO）のアルド・エルインサンには、4月に入ってからそれまでの倍近い1日約60人の母親が乳幼児を連れて来る。ハティーブ代表によると、自治政府が3月分の職員給与を払え医療器具が不足するガザ市のアルシファ病院で、透析の治療を受ける患者に声をかける医師は29日、村上写真



ず、栄養価の高い食材を買えなくなった家が増えたためだという。

日本国際ボランティアセンター（JVC）の藤屋リカ現地調整員によると、ガザ南部の幼稚園では約40人の子供のうち5人ほどしか朝食をとれていない。

イスラエルは今年に入ってから、ガザと同国をつなぐ最大の物流拠点のカルニ検問所をたびたび封鎖。イスラエルからの輸入に頼る砂糖や小麦粉、乳製品などが軒並み値上がりした。

さらに、ガザとヨルダン川西岸の自治区にいるパレスチナ人約380万人の4分の1の暮らしを支えるといわれる自治政府職員の給与支給が止まり、追い打ちをかけた。

ガザ市で食肉店を開いているアブドル店主によると、1日約6000匹の肉を売っていたのが、4月は約2000匹に落ちた。

自治政府が運営する同市のアルシファ病院では、医薬品が大幅に不足しているうえ、米国のNGOが4月から援助を中止したという。医師と看護師ら約1400人の従業員は給与をもらっていない。アルール医師は「子供用の点滴管がなくなり、圧力が高くて腕が痛む大人用を使わざるを得ない」と嘆いた。

欧米諸国は、自治政府への直接援助を凍結しても、人道支援は国連機関やNGOを通じて続けるとしている。

アラブ諸国やイランが資金援助を申し出ているが、欧米の制裁を懸念する銀行が送金を停止し、自治政府に届く見通しは立っていない。ハマスのハニヤ首相は「ドルのたりに譲歩はしない」と断

言しているが、庶民の生活を支える他の手段を示すことはできていない。ガザ市の人気ラジオ局「エルマナール」で聴衆との対話番組を司会しているタラル氏は「このままでは自暴自棄に陥った民衆の間に暴力がはびこり、收拾がつかなくなる」と心配している。